

階層移動の国際比較に向けての階層カテゴリーの構成：SSM職業小分類のEGP分類への変換とその方法

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-04-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 竹ノ下, 弘久, 田辺, 俊介, 鹿又, 伸夫 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00008218

階層移動の国際比較に向けての階層カテゴリーの構成 — SSM 職業小分類の EGP 分類への変換とその方法—

竹ノ下 弘 久
田 辺 俊 介
鹿 又 伸 夫

1. はじめに

階層研究では、1970年代以降、ログリニアモデルの登場とともに、出身階層と到達階層との間での世代間の結合様式に関する国際比較研究が盛んに行われている(Grusky and Hauser 1984; Yamaguchi 1987; Ganzeboom et al. 1989; Erikson and Goldthorpe 1992)。他方で、日本を主な対象とする階層研究については、世代間移動の趨勢について、これまでも盛んに取り上げられ、さまざまな論争を提起してきた反面(佐藤 2000; 原・盛山 1999; 鹿又 2001)、日本の世代間移動の動向を国際比較の中に位置づけようとする試みは、それほど行われてはいない。1990年代までについては、主に石田浩の一連の論考や山口一男やジョーンズと小島らの業績などに限られる(Ishida 1991; 2001; Yamaguchi 1987; Jones et al. 1994)。また、最近のものについては、佐藤嘉倫と有田伸の研究や三輪哲の研究がある(Sato and Arita 2004; 有田 2006; 三輪 2006)。

階層移動研究を行う際に、妥当な階層分類をいかに構成するかは、国際比較、時点比較に限らず、階層研究の基底的な要素をなしてきた。ログリニアモデルを用いた世代間移動研究などで使用される階層分類は、一般に次のようなやり方で構成される。第1に、サーベイなどで測定された職業情報は、その国のセンサスや他の公式統計で使用される何百ものカテゴリーを有する詳細な職業分類にコード化される。第2に、これらの詳細な職業分類が、社会学的に意味のある、分析可能な階層分類に変換される(Ganzeboom and Treiman 1996)。日本では、社会階層と社会移動全国調査(以下、SSM 調査)プロジェクトに従事する研究者たちが中心になって、いくつかの階層分類を構成してきた。SSM

調査で測定された職業情報は、国勢調査の職業分類をもとに修正を加えたSSM職業小分類へとコード化されてきた。SSM職業分類にもとづいて構成される階層分類としては、これまでも、SSM8分類や、SSM8分類に従業上の地位、企業規模などを組み合わせて作られた総合階層分類などが提案され、用いられてきた(原・盛山1999)。

しかし、これまでに日本で使用されてきた階層分類は、国際比較を念頭においたものではなく、もっぱら日本の階層移動の動向を記述、考察するために構成されてきたものである。国際比較にたえうる階層分類について十分な検討がなされていないことが、日本における階層の国際比較研究の展開を押しとどめてきたとも考えられる。そのため、日本において階層移動の国際比較研究を発展させるためには、その基盤となる階層分類の構成・検討が重要な課題となるであろう。

これまでの日本を対象とする階層移動の国際比較研究では、次の階層分類が用いられてきた。山口一男は、アメリカの階層研究で用いられてきた上層と下層のノンマニュアル、上層と下層のマニュアル、農業の5分類を用いている(Yamaguchi 1987)。ただし、この分類は、自営業層を独自の階層として区分していない。東アジア諸国を中心に国際比較を行う場合、とりわけ日本、韓国、台湾では、労働者に占める自営業層の割合は高く、山口が用いた分類では自営業層の階層移動の独自性を捉えることができない。また、佐藤嘉倫と有田伸の研究では、韓国の洪斗承が用いる階級分類に依拠して、分類を構成している。ここでは、資本家階級、新中間階級、旧中間階級、労働者階級、農民階級の5分類が用いられている(Sato and Arita 2004)。佐藤と有田の分類は、韓国社会を主に念頭においたものであるものの、表面的にはライトの階級分類とも類似性が高いように思える。

他方で、階層移動の国際比較において多くの研究者に採用され用いられている階層分類に、エリクソンとゴールドソーブラが提案したEGP階級分類がある(Erikson et al 1979; Erikson and Goldthorpe 1992)。日本の階層研究でも、石田浩や三輪哲の研究で用いられている(Ishida et al. 1991; Ishida 2001; 三輪2006)。EGP階級分類にはいくつかのバージョンが存在するが、エリクソンとゴールドソーブラがヨーロッパ諸国における階層移動の国際比較研究で使用しているのは、以下の7分類である。それは、専門・管理職層を中心とするサービス・クラス、単純ノンマニュアル、自営、自営農民、上層マニュアル、下層マニュアル、農業労働者から構成される。EGP階級分類が、多くの階層研究者によつ

て用いられる背景には、かれらが行った CASMIN プロジェクト (the Comparative Analysis of Social Mobility in Industrial Nations) が、これまでの階層移動の国際比較研究に大きな影響を及ぼしたことが関係している。また、トライマンやガンズブームらも、エリクソンやゴールドソープとは前提となる階層構造の概念、使用する分析手法、主張に異なる点が多く見られるものの、階層移動の国際比較研究においては、EGP6 分類を主に使用している (Ganzeboom et al. 1989; 1996)。EGP6 分類では、自営農民と農業労働者を一括りにして扱うほかは、前述の EGP7 分類と同様である。石田浩や三輪哲も、EGP6 分類を用いて日本の事例を国際比較のなかに位置づけている (Ishida 2001; 三輪 2006)。日本では、農業階層の多くは自営であり、被雇用の農業階層は非常に少ない。SSM データのサンプル数では、農業労働者を独立した階級カテゴリーとして扱うことは分析上困難が伴うと予想される。そうしたことから、日本の世代間移動の事例を他国との比較のなかに位置づける場合、EGP6 分類を用いる方が妥当なように思われる。

本研究では、日本の階層移動を国際比較のなかに位置づける際に重要となる階層分類の構成について検討を行う。その際、階層移動の国際比較研究において中心的な位置を占める EGP 階級分類を基盤にして、SSM の職業データからいかにして EGP 分類を構成していくか、その方法論について議論する。

2. EGP 階級分類の構成

(1) EGP 階級分類の特徴

エリクソンとゴールドソープは、階級分類を構築する際に、雇用 (生産) 関係を、分類構成の出発点に位置づけ、基本的な階級位置として、雇い主 (Employer)、従業員を持たない自営労働者 (Self-employed worker)、被雇用者 (Employee) の 3 つに区分する。そして、被雇用者については、雇用の構造や規制のあり方の相違にもとづいて、専門管理職を中心とするサービス・クラス、マニュアル労働者を中心とする労働者階級、両者の要素が複合した単純ノンマニュアルとマニュアル労働者の監督者からなる中間的な階級の 3 つへと区分する¹⁾。そして、スキルレベル、第一次産業と第二次・三次産業農業セクター間の相違もふまえ、最終的にフルバージョンの階級分類として、次の 11 分類を提案する。

それは、上層専門・管理 (Class I)、下層専門・管理 (Class II)、上層単純ノンマニュアル (Class IIIa)、下層単純ノンマニュアル (Class IIIb)、従業員を有する自営業 (Class IVa)、従業員を有さない自営業 (Class IVb)、自営農民 (Class

IVc)、マニュアル労働者の監督者・下位のテクニシャン (Class V)、熟練労働者 (Class VI)、半熟練・非熟練労働者 (Class VIIa)、農業労働者 (Class VIIb)、である。そして、ヨーロッパ諸国における世代間移動の国際比較を行うための階級分類として、国別のデータの比較可能性を保持する観点から、これら 11 分類のいくつかを統合した EGP7 分類を提唱した。それは、専門職、管理職を中心とするサービス・クラス (Class I+II)、単純ノンマニュアル (Class III)、自営業 (Class IVab)、自営農民 (Class IVc)、上層マニュアル (Class V+VI)、下層マニュアル (Class VIIa)、農業労働者 (Class VIIb)、である (Erikson and Goldthorpe 1992: 35-47)。当初の 11 分類ではなく、7 分類が用いられた背景には、各国のデータセットの職業、従業上の地位、役職、企業規模に関するコーディングの相違が関係している。CASMIN プロジェクトでは、調査対象国について独自の調査を実施したわけではなく、各国独自に行われた調査データから、International Mobility Superfile というデータセットを構築している。そのため、調査を通じて入手した情報のコード規則は、各国ごとに異なる。それは、詳細な職業小分類コードだけでなく、従業上の地位コードにも及ぶ。そうした国ごとのデータのコーディングの相違が、階層分類の構成にどう影響したかについてまとめる。

第 1 に、一部の国のデータで、自営業主の従業員の有無に関する情報が得られず、従業員の有無で自営業を区分することができなかった。第 2 に、専門管理を上層と下層に区分することは、個々の国の調査データが有する情報を活用して、すべての対象国について行うことはできた。しかし、個々の国の調査データは、異なる職業小分類システムでコード化されており、そうしたコーディングの相違は、各国の専門管理の上層と下層の区分線を異なるものにしたため、国際比較に際しては両者の統合を行った。第 3 に、マニュアル労働者の監督者・

¹ 被雇用者の区分については、専門管理職とマニュアル労働者との雇用のあり方をめぐる対照的な状況にもとづいて定式化している。マニュアル労働者に支配的な労働契約とは、比較的短期間の雇用契約のなかで、雇い主や監督者による指揮監督の下で、一定の労働量を提供し、その見返りとして賃金が支給される。他方で、専門的な知識にもとづいて仕事をする専門職や他の労働者を指揮監督する立場にある管理職の場合、その職務の遂行において一定の自律性が付与されなければならない。そのため、かれらの職務に対するパフォーマンスは、彼らが組織に対して感じる道徳的コミットメントに左右されると論じる。雇い主は、そうしたコミットメントを生み出し維持する手段として、被雇用者に対し、仕事に対する一定の金銭の支給にとどまらず、雇用の長期的な安定、退職後の年金権の保障、キャリア形成の機会などを、被雇用者に対して提供する。このように、雇い主と被雇用者との雇用関係が、サービス関係を伴うものか、労働契約に規制されるものかによって、雇用構造が大きく異なると論じている (Erikson and Goldthorpe 1992: 41-44)。

下位のテクニシャンと熟練労働者の区分についても、国際比較に際しては統合を行っている。その理由は、オリジナル・データの職業小分類、従業上の地位、役職コードの相違にとどまらず、特に製造業での現場の監督の組織のあり方についても、国によって大きく異なっているからであるとされる。したがって、国際比較における妥当な階層カテゴリーとして、マニュアル労働者の監督者を独立して抽出することが困難であり、熟練労働者との統合がなされた (Erikson and Goldthorpe 1992: 52)。このように、異なる規則でコード化された各国のサーベイデータを、EGP という標準化されたカテゴリーへと再コードするに際し、細かい分類への再コードには、多くの困難が付きまとう。国際比較のためには、ある程度統合された階層分類の使用が避けられないといえる。

(2) EGP 階級分類の構成における従業上の地位と役職の重要性

国際比較を念頭に構成されたエリクソンとゴールドソープが用いる EGP7 分類は、もともとはゴールドソープがイギリスの階級構造を考察するために考案した階級分類に端を発するものである。それらは、上層専門管理 (Class I)、下層専門管理 (Class II)、単純ノンマニュアル (Class III)、自営業・自営農民 (Class IV)、マニュアル労働者の監督者・下位のテクニシャン (Class V)、熟練労働者 (Class VI)、半熟練・非熟練労働者・農業労働者 (Class VII) に区分されている。ゴールドソープの分類は、EGP 分類と比較すると、農業従事者をそれぞれ独立したカテゴリーとして扱っていない点が異なるものの、その他の点については、両者は一貫した枠組みであると考えられる (Goldthorpe 1987: 39-42)。

ゴールドソープは、この階級分類を構成する上で、ホープとゴールドソープが提唱した職業尺度の 36 分類を合併することで、上記の 7 分類を提案している。ゴールドソープとホープは、本来、一次元上の連続的な職業尺度を構成する目的で、一連の研究を行ったが (Goldthorpe and Hope 1974)、後にこれらの研究の延長上で階級分類を形成している (Goldthorpe 1987)。ゴールドソープとホープは、職業評定尺度を構成する基本単位として、1970 年版のイギリス国勢調査局の職業分類を用いる。ここでは、職業が 223 のユニットグループから構成されている。さらに、この 223 分類を次の従業上の地位分類と組み合わせ、860 もの職業分類を提案する。ゴールドソープらの従業上の地位分類は、次の 7 つのカテゴリーからなる。それは、① 25 人以上の従業員をもつ自営業、② 25 人以下の従業員をもつ自営業、③ 従業員のいない自営業、④ 25 人以上の従業員がいる組織における管理職、⑤ 25 人以下の従業員がいる組織における管理職、⑥

監督者、⑦被雇用者（見習い、訓練生、家族従業者も含む）、である。ホープとゴールドソープの36分類とは、このようにして構成された860の職業小分類を統合することで、構成されたものである（Goldthorpe and Hope 1974: 134-143）。

ゴールドソープの階級分類の特徴の1つに、こうした従業上の地位と企業規模との密接なかかわりがある。とりわけ、管理職、雇い主（Employer）、自営業は、企業規模により所属階級が大きく異なってくる。雇い主のうち、業種に関わらず25人以上の被雇用者を有する雇い主は、生産活動から離れ、会社経営に従事する側面が強いことから、Class Iとして位置づけられる。そして、雇い主のうち、25人以下の被雇用者を有する雇い主は、自らもまた生産活動に従事する側面が強いことから、被雇用者のいない自営業者と同様のClass IVに位置づけられる。管理職の場合も同様に、25人以上の被雇用者を有する組織の管理職は、Class Iであり、25人以下では、Class IIとして位置づけられる。

さらに、職場における親方、監督、班長（Supervisor, Foreman）などの地位にあることも、ゴールドソープの階級分類において、重視されている。たとえば、職業情報だけでは単純ノンマニュアル労働に従事している人も、役職では「班長・監督」の地位にある場合、Class IIIではなく、Class IIとして位置づけられる。同様に、マニュアル労働者も、熟練、非熟練に関わらず、監督・職長の地位にある場合、Class Vとして位置づけられる。

（3）国際比較における職業小分類からEGP分類への変換方法

各国で測定された職業情報をEGP分類に変換する方法として、これまでに2つのやり方が提案されている。ひとつは、各国で測定された職業情報を活用する形で、それらをもとにEGP分類に変換するやり方である。いまひとつは、各国の職業情報をILOが提起している国際標準職業分類（ISCO）に変換し、そこから統一的なコード・ルールにもとづいて、EGPに変換するやり方である（石田2006）。CASMINプロジェクトは、前者の立場にもとづいて、各国の職業情報をEGP分類に変換している。後者の立場は、ガンズブームらによって提起され、ISCOコードを活用することで、EGP分類の構築手順の標準化を試みている。

両者のEGP分類の変換方法を比較すると、職業情報と従業上の地位情報の使い方に一定の相違が見られる。前者は、従業上の地位情報をコーディングの第1段階に使用し、第2の補正段階に詳細な職業コードを用いる。そのため、従業上の地位情報をEGP分類へのコーディングに際し重視している。後者は、詳細

な職業コードをコード化の第1段階で使用し、第2の補正段階で従業上の地位情報を利用する。それゆえ、ガンズブームらのやり方では、職業情報を優先的に活用している (Ganzeboom et al. 1996)。

加えて、コーディング規則の標準化・差異化という点で、両者は大きく異なる。CASMIN プロジェクトは、EGP コードの標準化を志向せず、国によって異なる形でコーディングを行う。標準化をあえて志向しない背景には、前述したように、次の2つの点に関係している。第1に、CASMIN をはじめ国際比較研究の多くが、各国独自に行われたサーベイデータの2次分析であるため、そもそも各国データのEGP変換に際し必要な情報についてのコード・ルールが異なる。たとえば、前述のように、専門管理の上層と下層の区分線については、各国データのコード・ルールの相違から、国によって大きく異なるものになっている。第2に、個々の職業の労働市場における位置づけのあり方が、国によって異なる (Erikson and Goldthorpe 1992)。たとえばエリクソンらは、イギリス、フランス、スウェーデンの3カ国比較に際し、職場などの親方、現場監督 (Foremen) の位置づけが、イギリス・フランスとスウェーデンで大きく異なることを報告する。この職業は、通常のEGP分類では、現場の監督者と熟練労働者 (Class V+VI) と位置づけられるが、スウェーデンの労働市場の観点からは、下層専門管理 (Class II) と位置づけられる。なぜなら、スウェーデンでは、職場の親方、監督は、監督されるブルーカラーの労働者と比較して、より高い水準の学歴を要求されるからである (Erikson et al. 1979)。こうした点をかながみると、同一の職業タイトルであるからといって、各国で同一のEGP分類に変換されるとは限らない。CASMIN プロジェクトの手法に従えば、各国の労働市場の相違を考慮する形で、EGP分類の構築を行う必要がある。

他方で、ガンズブームらは、ISCOの職業小分類を媒介させることで、各国のデータからEGP分類を構築するに際しての標準化を試みた。ガンズブームらのやり方に従うと、はじめに各国のローカル・コードをISCOコードに変換しなければならない。そして、ISCOコードと標準化された従業上の地位情報を用いて、EGPへの変換が行われる²。ガンズブームらは、CASMIN プロジェクトの

² ガンズブームらは、標準化された従業上の地位スキームは、次の2つの変数から構成されるとする。ひとつは、自営業かいなかという変数であり、いまひとつは、監督者地位に関する変数である。監督者地位変数の操作化について述べると、企業の管理職であれば、部下の数にもとづいて、会社の所有者であれば、従業員の数にもとづいて操作化する。部下が1人以上いる場合、職場の監督者とみなされ、単純ノンマニュアル (Class III) の場合は、下層専門管理 (Class II) に、熟練・非熟練労働に従事する場合は、マニュアル労働の監督者・下位のテクニシャン (Class V) へと変換される (Ganzeboom et al. 1996)。

変換方法を大きく参考にする形で、ISCO の職業小分類と EGP との対応関係を明確にした。CASMIN プロジェクトに従事していない研究者が、EGP 分類を用いて国際比較を行う際、ガンズブームらの試みは非常に示唆に富むものである。ガンズブームらの手法を用いることで、比較的簡便な形で、各国のサーベイデータから階層分類を構成することが可能である (Ganzeboom et al. 1996)³。

とはいえ、ガンズブームらの変換方法を用いる場合、標準化に伴う問題点に注意を払う必要がある。ガンズブームらの手法は、各国独自に行われた調査データのコーディング規則の相違を一定程度縮約することを可能にする。しかし、かれらの手法をそのままの形で使用することは、各国に特有な労働市場の動向を無視することにつながりかねない。ガンズブームらの手法を実際の国際比較研究に応用する場合、その都度、対象となっている国の労働市場の動向を考慮する形で、一定の修正を加えていくことが求められるだろう。

3. SSM データを用いた EGP 分類へのコード化とその方法

(1) SSM 職業小分類と EGP 分類との対応関係

SSM 職業小分類を EGP 分類に変換する際、次の点について考慮することが非常に重要な課題となる。それは、日本の労働市場における個々の職業の位置づけの特有性を重視する形で変換を行うのか、あるいは、ガンズブームらが提起した ISCO から EGP への変換方法を大きく参考にする形で、SSM 職業小分類から EGP への変換を行うか、である。いずれの手法を用いるかで、個々の対象者がどの EGP 階級へと区分されるかに一定の相違をもたらすと考えられる。

エリクソンとゴールドソープは、(1) 専門管理の上層と下層の区分の仕方、(2) ブルーカラーの上層と下層の区分のあり方が国によって異なっていることを率直に認めている (Erikson and Goldthorpe 1992)。ガンズブームらも、専門管理、ブルーカラーのスキルレベルにもとづく一律の区分が困難であることに加え、(3) サービス・セクターの職業が、ノンマニュアルとマニュアルの双方にまたがって変換されており、これらを一律の明確な基準を用いて EGP 分類に変換することが困難であったと述べる (Ganzeboom et al. 1996)。

これら 3 点について、いかなる解決が可能であるか。先に述べたように、SSM のやり方にもとづき、日本の労働市場の文脈を重視するか、ガンズブームらのやり方を大きく参考にして、SSM 小分類から EGP への変換を行うか、という

³ ガンズブームらの研究では、巻末に ISCO の 4 桁コードに対して、どの EGP 階級に分類可能であるか明記している。

2つのやり方が考えられる⁴。しかしながら、コーディング問題の対処には、以下に述べるように、二者択一の解決というわけにはいかない事情が存在する。なぜなら、SSM 調査は、基本的にローカルなコード・ルールにもとづいてコードされており、どちらか一方のやり方に特化しては、EGP 分類への十分な変換は困難であるからである。後述するように、前者の方法では、とりわけ専門管理の上層と下層の区分が、後者の方法では、とりわけマニュアル労働の上層と下層の区分が困難になる。いずれの方法を主たる基準に用いるかという問題はあるが、フルバージョンの EGP11 分類を構成するためには、部分的に両者のやり方を折衷することが求められる。

では具体的に、SSM 大分類情報を主に用いた場合と、ガンズブームらの ISCO から EGP への変換情報を主に用いた場合では、SSM 職業小分類の EGP への変換のあり方がどのように異なるのであろうか。付表 1 は、個々の SSM 職業小分類ごとに EGP 分類への割り当てを行ったものであり、SSM 大分類の変換方法を参考にした場合と、ガンズブームらの変換方法を参考にした場合の両者を掲載し、比較した。EGP 分類への変換に際しては、本研究では、フルバージョンの EGP11 分類への変換を行う⁵。ただし、ガンズブームの変換方法を参考にする場合であっても、ISCO88 と SSM 職業小分類では、コード・ルールに大きな相違があり、完全な 1 対 1 対応にはなっていない。そのため、ガンズブームの変換方法を参考にすることはいっても、完全にそれをここで模倣することができない。

たとえば、ISCO88 は、スキルレベルにもとづいて、職業を大きく区分している。専門職については、スキルレベルの高い 2000 番台とスキルレベルの低い 3000 番台とに区分されている。またマニュアル労働も、使用するスキルの特殊性の異同にもとづいて、大きく 7000 番台、8000 番台、9000 番台の 3 つに区分されている。マニュアル労働の場合、機械の修理や生産機械の調整業務は、7000 番台に位置づけられ、工場のラインで機械を操作しながら生産する場合は、機械操作員として 8000 番台に位置づけられる。しかしながら、1995 年に改訂された SSM 職業小分類は、その多くが生産工と修理・調整工を同一コードにコード化しているため、ガンズブームらのマッピングだけでは、マニュアル労働者を上

⁴ 鹿又ほか（近刊）では、SSM 職業小分類と ISCO88 の職業分類との対応関係を明示し、そこから EGP 分類への変換を試みている。そのため、結果的に SSM 職業大分類へのコーディング情報よりも、ISCO 分類のコーディング情報を重視する形で、変換方法の詳細を提示している。

⁵ ガンズブームらの ISCO から EGP へのコーディングでは、単純ノンマニュアルを上層（Class IIIa）と下層（Class IIIb）に区分していない。

層と下層に区分することは困難である。そのため、ガンズブームのやり方を参考にコードしたものであっても、SSM のやり方を部分的に参考にせざるをえなかった。

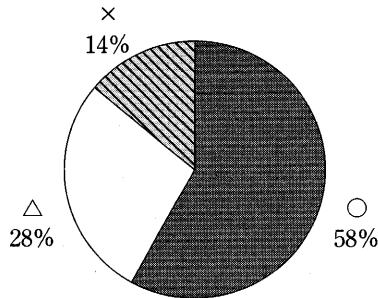
それに加えて、SSM 大分類では、専門と管理を区分する反面、EGP 分類のように両者をスキルレベルなどにもとづいて、上層と下層に区分しておらず、これらの情報からは、EGP 分類への変換は困難である。専門管理を上層と下層に区分するには、SSM 小分類から大分類への情報だけでなく、ガンズブームらのやり方や、日本の労働市場における個々の専門職の位置づけに関する考察が必要になるだろう。

巻末に掲載した付表1では、個々のSSM 職業小分類とEGP 階級分類との対応関係を明示している。その際、SSM 小分類から大分類への変換様式を参考にした場合でのコーディングと、ガンズブームらのISCO からの変換様式を参考にした場合でのコーディングの2通りを表示した。図1では、両者の一致、不一致の比率を図示した。SSM 職業小分類のうち58%が、いずれの方法を用いるにせよ、同一のEGP 分類にコード化されている。図のなかで△と記したものは、一方の方法では、隣接する2つのEGP 階級カテゴリーのいずれに分類しうるか不明であるものの、他方の方法のコードと部分的であれ一致するケースを指す。△に該当する職種は、専門職が多く、マニュアル労働も少なからず存在する。専門職については、次の理由からこうしたケースが生じている。SSM 大分類では、専門職をスキルレベルに応じて上層と下層に区分しておらず、SSM の小分類から大分類への変換情報だけでは、EGP 分類のClass I と Class II への振り分けができない。また、SSM 小分類の製造工程関連の職業の一部は、生産工と修理工を同一カテゴリーにコーディングしている。他方で、ISCO は、生産工と修理工を別の分類にコーディングしており、多くは、修理工・調整工であれば熟練に、生産工であれば生産機械の操作員ということで非熟練にコードしている。これらは、ISCO のコード情報だけでは、分類不能のケースであるが、SSM の変換情報を用いたコードと部分的に合致するため、△とした。そうしたカテゴリーに属する比率は、全体の28%であった。

最後に、完全にSSM の分類法を参考にした場合とガンズブームらのISCO コードを参考にした場合で、両者のEGP コードが不一致であったものは、14%であった。全体の傾向としては、両者のコードの一致率は不一致率を上回っていた。両者のコードが一致しているSSM 職業小分類については、EGP 分類へのコーディングについて、さらなる検討は必要ないものと思われる。しかしながら、

不一致率が1割を超えている状況は、必ずしも無視できる程度のものではない。

図1 ローカルコードとISCOコードのEGP変換における一致・不一致率



コーディングが一致しない職業については、次の方針でEGPコードの決定を行いたい。第1に、日本の労働市場の文脈から考えて、ローカル・コードの方が明らかに妥当なコーディングであると判断しうるケースについては、SSMのやり方を踏襲する。第2に、専門職のように、SSMの小分類から大分類への変換情報では、最終的なEGP分類へのコーディングが困難なケースについては、ISCOからの変換情報を活用する。ISCOのコーディング情報が、日本の労働市場の文脈から逸脱するものでなければ、これを採用する。第3に、かえってSSMの変換情報が、現在の日本の労働市場の文脈から逸脱すると判断しうるケースについては、ISCOの変換情報を参考にしてコーディングを行う。これら3つの規則の優先順位にふれると、1番目の条件をもっとも優先し、ついで2番目、最後に3番目という風に考えたい。したがって、不一致ケースのコーディングには、まずはローカル・コードを重視し、それではうまくコーディングができない場合に、ISCOコードを活用するというやり方で行いたい。

(2) 不一致ケースのEGP分類へのコーディング

以下では、具体的にどの職業小分類で不一致が生じているのか、不一致ケースについて、EGP分類へのコーディングをいかに行うか、検討する。付表1は、個々のSSM職業小分類とEGP分類との対応関係を明示している。表の1列目にガンズブームらのやり方を参考にしたEGPコードを、2列目にSSMのやり方を参考にしたコードを示している。3列目が、両者の一致・不一致の結果を表し、4列目に、これらの不一致の検討を踏まえた決定版を表示した。

△のケースについては、前述の通り、専門職と一部の生産工程関連職で生じている。専門職については、前述のとおり、SSM 小分類から大分類へのコーディングにおいて、上層と下層に区分するコード規則が存在しない。ガンズブームらの分類法で、上層と位置づけられる専門職の多くは、日本においても次のような状況にあると思われる。おおむねその職務を遂行するために、最低でも4年制の大卒以上の学歴が必要である、または大学院修了が一般的である。一部の職種は、4年制大卒後に資格試験があり、試験の合格が非常に困難である。他方で、下層の専門職と位置づけられる職種を見ていくと、それらの職種は、必ずしも大卒の資格を必要とせず、高卒後に専門学校に進学しても、それらの職種につくことが可能なものも多い。小中高等学校の教員については、4年制大学を卒業して従事する人が多いが、かれらの分類では、下層専門職に位置づけられている。しかし、大学教員が、大学院卒の学歴が一般的であることをかんがみると、小中高校の教員を下層専門職に位置づけることは、一定の妥当性があると思われる。ガンズブームらの分類をSSM分類にあてはめた結果を見る限り、専門職については、かれらの分類法を踏襲して差し支えないと思われる。

次に、570番台以降の主として販売・サービス職のコーディングについて検討する。不一致ケースの中でも、完全な不一致を示すものは、この部分に多く集中している。たとえば、572から575の商品仲立人、外交員、保険代理人、不動産仲介人は、SSMからの分類では下層単純ノンマニュアルとして位置づけられているが、ISCOからの分類では、下層専門職と区分される。その理由は、ISCOではこれらの職業が、財務・販売・ビジネス関連の準専門職と位置づけられており、ガンズブームらも、ISCOの考え方に即して、EGP分類への変換を行っているようである。しかし、日本の文脈で考えてみると、これらの職業の専門職としての位置づけは、それほど一般的ではない。また、これらの職業は必ずしも大卒の資格を必要とするものでもない。保険外交員の場合、女性がパート労働として従事することも多く、その職業への参入障壁は必ずしも高くない。そのため、これらの職業については、日本の文脈を重視して、Class III b にコーディングするのが妥当なものと思われる。同様に、旅館の主人(589)や下宿・アパートの管理人(590)も、ガンズブームらは下層専門職に分類するが、日本の文脈ではそうしたコードは妥当性を欠くため、これらもSSMコードにもとづいて分類する。

バーテンダー(582)、給仕係(583)、接客社交員(585)は、SSMでは下層単純ノンマニュアルとされるが、ガンズブームらは非熟練マニュアルと分類す

る。ガンズブームらの分類では、サービス・セクターの仕事のうち、直接、販売の仕事に従事せず、もっぱらほとんど技能を要さないサービスを客に提供する仕事については、非熟練マニュアルとして位置づけている。日本の職業についても、低賃金で、雇用の不安定なサービス・セクターの仕事は増加傾向にあり、その社会経済的地位は低いことがうかがえる。そのため、これらの職業については、ガンズブームらにならぬ、非熟練マニュアルと分類することには、一定の妥当性があると考えられる⁶。同様に、女中・家政婦・家事サービス職業(578)も、給仕係と同様、職務遂行に熟練を要さないサービス職である。この職業については、SSM では、販売的な側面がないことから、非熟練マニュアルとされるが、ISCO では、下層単純ノンマニュアルとされる。ウェイターのコーディングとの一貫性を考えると、これも非熟練マニュアルとコードするのが妥当なものと思われる。

再生資源卸売回収人(571)については、SSM の分類では下層単純ノンマニュアルに、ISCO からの分類では非熟練マニュアルと、コードされる。ISCO からの分類については、ISCO の5000番台に、この職業と完全に一致するコードがなく、運搬やごみ拾いと関連するコードから分類した。再生資源卸売回収人のEGPコードへの分類に際しては、卸売・販売の側面を重視するか、再生資源の回収・運搬の側面を重視するかで、コーディングの内容が変わってくる。前者であれば、下層単純ノンマニュアルに、後者であれば、非熟練マニュアルとなる。今回については、ISCO からの分類に、SSM からの分類を上回る特段の合理的理由が存在しないため、これについては、日本の労働市場の文脈を重視して、SSM からの分類を採用し、下層単純ノンマニュアルにコードしたい。

次に、593から598の保安的職業のコードに注目する。これらの職業はいずれも、コーディングの不一致を示している。SSM からの分類では、すべての職業は上層単純ノンマニュアル(事務職)へとコードされるが、ISCO からの分類では、スキルレベルに応じて異なるコードが割り振られている。日本の労働市場の文脈における保安的職業の位置づけについて考えると、労働市場セクター間の相違が大きいように思われる。公共セクターに属する自衛官(593)、警察官(594)、消防官(595)は、安定した雇用を享受し、職務のなかには、事務的な

⁶ ガンズブームらの分類では、たとえば、サービスセクターの仕事のうち、飲食店にかかわる仕事は、調理師については熟練マニュアルとされ、料理を運んだり、注文をとったりするウェイターは、非熟練マニュアルと位置づけられる。SSMの場合、スキルレベルに応じてというよりも、職務内容の観点から、調理師は熟練の職業とされ、ウェイターは、販売的職業と位置づけられる。

職務も多く含まれるものと推察される。そのため、SSM の分類を踏襲して、Class III a のコーディングで差し支えないものと思われる。他方で、看守・守衛・監視員 (596) とその他の保安職 (597) については、公共セクターと民間セクター双方の労働者を含む。両者の間には、そこへの参入障壁に大きな相違がある。前者は、競争の激しい公務員試験に合格することが求められる反面、後者は、特に参入障壁もなく、学歴要件も存在しない。そのため、596 と 597 のコーディングについては、民間セクターの場合は、非熟練マニュアルとし、公共セクターの場合、上層単純ノンマニュアルとコードするのが妥当に思われる。旧職業軍人 (598) についても、自衛官と同様、上層単純ノンマニュアルとする。

運輸・通信関連の職業については、電車・機関車運転士 (606)、車掌 (611)、有線通信士 (616)、郵便・電報外務員 (618) で、コーディングの不一致がみられた。車掌と郵便・電報外務員については、マニュアル・ノンマニュアル境界を越えて不一致が見られ、電車運転士と通信士に関しては、マニュアル、ノンマニュアル境界内部での不一致である。日本の労働市場の文脈を考慮すると、SSM のやり方にもとづいてコーディングするほうが、おおむね妥当に思われるが、車掌と電車・機関車運転士については、ガンズブームらのコーディングの方が妥当に思われる。車掌と電車運転士は、SSM では非熟練に位置づけられているが、ガンズブームらでは、車掌は単純ノンマニュアル、電車運転士は熟練とされている。車掌については、その職業の内容や特性を考慮すると、単純ノンマニュアルと位置づける方が妥当に思われる。電車・機関車運転士も、自動車運転士 (607) と比べると、その職務に必要なスキルレベルは、相対的に高いと予想しうることから、電車運転士は、ガンズブームらにならぬ、熟練と位置づけたい。

つぎに、620 以降のおおむね生産工程に従事するブルーカラーの職業に注目したい。SSM と ISCO の両者の不一致は、個々の職業を熟練と非熟練いずれにコードするかで生じている。ISCO からのコーディングの場合、必ずしも SSM の小分類とコードが対応しているわけではなく、筆者らの一定の類推が介在している。ISCO の職業小分類は、類似の職務に従事する場合であっても、スキルレベルにもとづいて細かい分類がなされているが、SSM 職業小分類では、そうした点は考慮されていない。このように、日本の労働市場の文脈と、SSM 小分類と ISCO とのずれを考慮に入れると、620 番以降の生産工程職種についても、SSM 小分類から大分類への変換情報にもとづいて、EGP へのコーディングを行うのが妥当なように思われる⁷。

こうした検討をふまえ、最終的に付表1のような形で、SSM 職業小分類からEGP 分類へのコーディングの決定版を作成した。

(3) 従業上の地位と EGP 分類へのコーディング

EGP 分類の作成において、従業上の地位情報の活用は非常に重要な要素をしめる。2の(2)で取り上げたように、ゴールドソープは、従業上の地位を7つのカテゴリーから構成されるものとしている。

ゴールドソープがイギリスのデータのコーディングで用いた従業上の地位スキームを、日本のデータにあてはめて考える場合、家族従業者をどこに位置づけるかについて、ここで検討する必要がある。前述のように、ゴールドソープらは、家族従業者を職位のない賃金労働者ととともに、被雇用者 (Employee) のなかに含めており、自営業者カテゴリーの中に家族従業者は含まれていない。他方で、SSM 調査を用いた先行研究の多くは、家族従業者を自営業者と同一のカテゴリーに分類してきた。CASMIN プロジェクトでは、日本のデータをEGPにコーディングする際、家族従業者の位置づけが特に問題になったと報告している。日本のデータのコーディングについては、原則として家族従業者は他の賃金労働者と同様に位置づけつつ、共同経営者的な要素を有すると思われる家族従業者については、自営業にコーディングを行ったとしている (Ishida et al. 1991: 961; Erikson and Goldthorpe 1992: 342-343)。家族従業者のコーディングについて、一人ひとりのライフコースの軌跡もふまえて行うことは、全体のケース数も考えると、多くの困難が予想される。本研究では、韓国や台湾との国際比較も念頭においた上で、ゴールドソープらのやり方にならぬ、家族従業者は日本においても、雇い主 (Employer) に対して従属的な位置を占める点を重視し、賃金労働者と同様、被雇用者と位置づけて、コーディングを行うことにしたい⁷。本研究では、こうしたコーディングの指針を採用するが、家族従業者を自営業と被雇用のどちらに位置づけるかは、個々の研究の目的や関心に依

⁷ 633から636の、一般機械、電気機械、自動車、船舶の組立工・修理工については、ISCOでは、組立工と修理工が別個に区分され、EGP分類でも異なるコードがふられている。他方で、SSM小分類では、両者に対し同一コードがふられているため、ISCOのコード情報では、SSMからEGPへの変換ができない。そのため、コーディングに際しては、SSMの変換情報を用いて、EGPへのコーディングを行うこととする。

⁸ 本研究では、家族従業者を被雇用者に位置づけるコーディングの指針を採用するが、家族従業者を被雇用と自営のどちらに位置づけるかは、個々の研究の目的や関心に依存する問題でもある。そのため、今後、いかなる目的で研究を行うかによって、柔軟に変更していくことが望ましいだろう。

存する問題でもある。そのため、今後、いかなる目的で研究を行うかによって、柔軟に変更していくことが望ましいだろう。

つぎに、こうした従業上の地位カテゴリーを用いて、SSM データをどう EGP 分類へと変換していくのか、その手続きについて述べたい。ゴールドソープは、従業上の地位において、雇用主 (Employer) が管理職である場合、企業規模が 25 人以上かそれ以下かによって、階級所属が異なるという考え方をとっている。SSM では、従業先の規模を 25 人を基準にはたずねていないため、30 人を軸に区分する必要がある。これらの情報を用いて、第 1 段階で行ったコーディングに対して一定の補正を行う。第 1 に、30 人以上の従業員をもつ雇用主は、いかなる職種であれ Class I に変換する。第 2 に、第 1 段階で単純ノンマニュアル(Ⅲ)、熟練 (Ⅵ)、半・非熟練 (Ⅶa) にコーディングされ、1 人以上、29 人未満の従業員のいる雇用主は、Class IVa に、従業員のいない自営業の場合は Class IVb に変換する。

第 3 に、被雇用者で、SSM 職業小分類が 548 から 553 にコードされたもの、職業小分類では管理職コードがふられていないが、役職において課長以上のものについては、従業先の規模に応じて次の補正を行う。従業先の規模が 30 人以上の場合は、Class I とし、規模が 29 人未満については Class II とする。第 4 に、第 1 段階のコーディングで Class III に分類されたもののうち、役職で職長・班長・係長などの監督的地位にあるものは、Class II に修正する。第 5 に、第 1 段階のコーディングで Class VI もしくは VIIa に分類されたもののうち、役職で職長・班長・係長などの監督的地位にあるものについては、Class V に変換する。

こうした修正を行うことで、EGP 階級分類が完成する。Appendix には、これらの変換を行う STATA プログラムを掲載した。

4. おわりに

表 1 では、Appendix で紹介した STATA プログラムを用いて、1965 年から 2005 年までの男性回答者の現職の分布の推移を示した。石田浩の結果と比較するとやや自営業の比率が低い値となっているが、これは家族従業者の位置づけの相違を反映していると思われる (Ishida 2001)。

表1 SSM データにおける EGP 分類を用いた現職分布(1965 年から 2005 年まで)

	1965	1975	1985	1995	2005
I 上層専門管理	9.6	13.5	16.9	21.7	19.3
II 下層専門管理	9.5	10.4	12.8	13.8	13.7
IIIa 上層単純ノンマニュアル	9.4	9.6	9.9	7.0	7.6
IIIb 下層単純ノンマニュアル	5.2	4.9	3.4	3.7	4.7
IVa 自営業主	11.6	6.9	6.7	13.9	10.3
IVb 単独自営	5.2	7.2	10.1	3.5	4.1
V マニュアルの監督者	4.5	4.8	6.1	6.5	6.9
VI 熟練	9.2	10.9	11.0	9.9	10.8
VIIa 非熟練	15.9	16.6	15.5	14.1	16.5
IVc+VIIb 農業	19.9	15.2	7.5	5.8	6.0
サンプル数	1,965	2,532	2,214	2,183	2,198

本研究で提示した SSM 調査データの EGP 分類へのコーディングのやり方は、さまざまにありうる変換方法のひとつにすぎない。鹿又ほか(近刊)では、ISCO と SSM の職業小分類との対応関係を明示するなかで、変換方法の定式化を行っており、本研究とはその基本的な考え方が異なる。また、階層移動の国際比較を行うに際し、EGP だけが唯一の妥当な階層分類とも限らない。EGP 分類も含めて、階層移動の国際比較を行うにあたり、妥当な階層分類の探索や構成を今後も継続していく必要があるだろう。

【付 記】

SSM データの利用に当たっては、2005 年 SSM 調査研究会の許可を得た。本研究は、科学研究費補助金(若干研究 B)による研究成果の一部である。

【文 献】

- 有田 伸 2006『韓国の教育と社会階層』東京大学出版会。
- Erikson, Robert and John. H. Goldthorpe, 1992, *The Constant Flux: A Study of Class Mobility in Industrial Societies*, Oxford: Clarendon Press.
- Erikson, Robert, John H. Goldthorpe and Lucienne Portocarero, 1979, "Intergenerational Class Mobility in three Western European Societies: England, France and Sweden," *British Journal of Sociology* 30: 415-441.

- Ganzeboom, Harry B. G., R. Luijkx, and D. J. Treiman, 1989, "Intergenerational class mobility in comparative perspective," *Research in Social Stratification and Mobility* 8: 3-84.
- Ganzeboom, Harry B. G. and D. J. Treiman, 1996, "Internationally Comparable Measures of Occupational Status for the 1988 International Standard Classification of Occupations," *Social Science Research* 25: 201-239.
- Goldthorpe, John. H., 1987, *Social Mobility and Class Structure in Modern Britain 2nd edition*, Oxford: Clarendon Press.
- Goldthorpe, John H. and Keith Hope, 1974, *Social Grading of Occupations: A New Approach and Scale*, Oxford: Clarendon Press.
- Grusky, David and Robert M. Hauser, 1984, "Comparative Social Mobility Revisited: Models of Convergence and Divergence in Sixteen Countries," *American Sociological Review* 49: 19-38.
- 原 純輔・盛山和夫 1999『社会階層——豊かさの中の不平等』東京大学出版会.
- Ishida, Hiroshi, John H. Goldthorpe, and Robert Erikson, 1991, "Intergenerational Class Mobility in Postwar Japan," *American Journal of Sociology* 96: 954-992.
- Ishida, Hiroshi, 2001, "Industrialization, Class Structure, and Social Mobility in Postwar Japan," *British Journal of Sociology* 52: 579-604.
- 石田 浩 2006「社会階層・社会移動の国際比較調査の課題」第79回日本社会学会大会テーマセッション「国際比較調査の課題」報告.
- Jones, F. L., Hideo Kojima and Gary Marks, 1994, "Comparative Social Fluidity: Trends Over Time in Father-to-son Mobility in Japan and Australia, 1965-1985," *Social Forces* 72(3): 775-798.
- 鹿又伸夫 2001『機会と結果の不平等——世代間移動と所得・資産格差』ミネルヴァ書房.
- 鹿又伸夫・田辺俊介・竹ノ下弘久 近刊「SSM 職業分類と国際的階層指標——ISCO・EGP・SIOP・ISEI への変換」『2005年社会階層と社会移動全国調査報告書』
- 三輪 哲 2006「後発産業社会における社会移動の趨勢とパターン——日本と韓国の社会移動にみられる相違と類似」『社会学研究』79号：165-193.

佐藤俊樹 2000『不平等社会日本』中央公論新社。

Sato, Yoshimichi and Shin Arita. 2004. "Impact of Globalization on Social Mobility in Japan and Korea: Focusing on Middle Classes in Fluid Societies." *International Journal of Japanese Sociology* 13: 36-52.

Yamaguchi, Kazuo, 1987, "Models for Mobility Tables: Toward Parsimony and Substance", *American Sociological Review*, 52: 482-494.

付表1 SSM 職業小分類と EGP 分類との対応関係

ISCO	SSM	不一致	決定版	小分類	名 称
1	lor2	△	1	501	自然科学系研究者
1	lor2	△	1	502	人文科学系研究者
1	lor2	△	1	503	機械・電気・化学技術者
1	lor2	△	1	504	建築・土木技術者
1	lor2	△	2	505	農林技術者
2	lor2	△	2	506	情報処理技術者
1	lor2	△	1	507	その他の技師・技術者
1	lor2	△	1	508	医師
1	lor2	△	1	509	歯科医師
1	lor2	△	1	510	薬剤師
2	lor2	△	2	511	助産婦
2	lor2	△	2	512	保健婦
2	lor2	△	2	513	栄養士
2	lor2	△	2	514	看護婦, 看護師
2	lor2	△	2	515	あん摩・はり・きゅう師, 柔道整復師
2	lor2	△	2	516	その他の保健医療従事者
1	lor2	△	1	517	裁判官, 検察官, 弁護士
1	lor2	△	1	518	その他の法務従事者
1	lor2	△	1	519	公認会計士, 税理士
2	lor2	△	2	520	幼稚園教員
2	lor2	△	2	521	小学校教員
2	lor2	△	2	522	中学校教員
2	lor2	△	2	523	高等学校教員
1	lor2	△	1	524	大学教員
2	lor2	△	2	525	盲学校・ろう(聾)学校・養護学校教員
2	lor2	△	2	526	その他の教員
2	lor2	△	2	527	宗教家
2	lor2	△	2	528	文芸家, 著述家
2	lor2	△	2	529	記者, 編集者
2	lor2	△	2	530	彫刻家, 画家, 工芸美術家
1	lor2	△	2	531	デザイナー
2	lor2	△	2	532	写真家, カメラマン
2	lor2	△	2	533	音楽家(個人に教授するものを除く)
2	lor2	△	2	534	俳優, 舞踊家, 演芸家(個人に教授するものを除く)
2	lor2	△	2	535	職業スポーツ家(個人に教授するものを除く)
1	lor2	△	1	536	獣医師
2	lor2	△	2	537	保母, 保父

ISCO	SSM	不一致	決定版	小分類	名 称
2	lor2	△	2	538	社会福祉事業専門職員
2	lor2	△	2	539	個人教師
2	lor2	△	2	540	不動産鑑定士
1	lor2	△	2	541	経営コンサルタント
2	lor2	△	2	542	アナウンサー(ラジオ・テレビ)
2	lor2	△	2	543	図書館司書
2	lor2	△	2	544	その他の専門的・技術的職業従事者
1	1		1	545	管理的公務員
1	1		1	546	国会議員
1	1		1	547	地方議員
lor2	lor2		lor2	548	会社役員
lor2	lor2		lor2	549	その他の法人・団体の役員
lor2	lor2		lor2	550	会社・団体等の管理職員
lor2	lor2		lor2	551	駅長, 区長
lor2	lor2		lor2	552	郵便局長, 電報・電話局長
lor2	lor2		lor2	553	その他の管理的職業従事者
3a	3a		3a	554	総務・企画事務員
3a	3a		3a	555	受付・案内事務員
3a	3a		3a	556	出荷・受荷事務員
3a	3a		3a	557	営業・販売事務員
3a	3a		3a	558	その他の一般事務員
3a	3a		3a	559	会計事務員
3a	3a		3a	560	郵便・通信事務員
3a	3a		3a	561	集金人
3a	3a		3a	562	その他の外勤事務従事者
3a	3a		3a	563	運輸事務員
3a	3a		3a	564	速記者, タイピスト, キーパンチャー
3a	3a		3a	565	電子計算機等操作員
3b	3b		3b	566	小売店主
3b	3b		3b	567	卸売店主
3b	3b		3b	568	飲食店主
3b	3b		3b	569	販売店員
3b	3b		3b	570	行商人, 呼売人, 露天商人
7a	3b	×	3b	571	再生資源卸売人・回収人
2	3b	×	3b	572	商品仲立人
2	3b	×	3b	573	外交員(保険, 不動産を除く)
2	3b	×	3b	574	保険代理人・外交員
2	3b	×	3b	575	不動産仲介人・売買人
3b	3b		3b	576	質屋店主・店員

ISCO	SSM	不一致	決定版	小分類	名 称
3b	3b		3b	577	その他の販売類似職業従事者
3b	7a	×	7a	578	女中,家政婦,家事サービス職業従事者
6	6		6	579	理容師,美容師
7a	7a		7a	580	クリーニング職,洗張職
6	6		6	581	料理人
7a	3b	×	7a	582	バーテンダー
7a	3b	×	7a	583	給仕係
3b	3b		3b	584	スチュワーデス,スチュワード
7a	3b	×	7a	585	接客社交係
3a	3a		3a	586	娯楽場などの接客員
3b	3b		3b	587	旅行・観光案内人
3b	3b		7a	588	その他の個人サービス職業従事者
2	3b	×	3b	589	旅館・貸席等の主人・番頭,ホテル支配人
2	3a	×	3a	590	下宿・アパートの管理人,舎監,寮母
3b	7a	×	3b	591	ファッションモデル
7a	7a		7a	592	その他のサービス職業従事者
6	3a	×	3a	593	自衛官
6	3a	×	3a	594	警察官,海上保安官,鉄道公安員
6	3a	×	3a	595	消防員
7a	3a	×	3a	596	看守,守衛,監視員
7a	3a	×	3a	597	その他の保安職業従事者
2	3a	×	3a	598	旧職業軍人
4c	4c		4c	599	農耕・養蚕作業者
4c	4c		4c	600	植木職,造園師
4c	4c		4c	601	畜産作業者
4c	4c		4c	602	林業作業者
4c	4c		4c	603	その他の農林業作業者
4c	4c		4c	604	漁業作業者
4c	4c		4c	605	漁船の船長・航海士・機関長・機関士
6	7a	×	6	606	電車・機関車運転士
7a	7a		7a	607	自動車運転者
2	1or2	△	2	608	船長・航海士(漁船を除く),水先人
2	1or2	△	2	609	船舶機関長・機関士(漁船を除く)
1	1or2	△	1	610	航空機操縦士,航空士,航空機関士
3b	7a	×	3b	611	車掌
7a	7a		7a	612	鉄道員
7a	7a		7a	613	船員
7a	7a		7a	614	その他の運輸従事者
2	1or2	△	2	615	無線通信士,無線技術士

ISCO	SSM	不一致	決定版	小分類	名 称
2	3a	×	3a	616	有線通信士
3a	3a		3a	617	電話交換手
7a	3a	×	3a	618	郵便・電報外務員
2	3a	×	3a	619	その他の通信従事者
7a	7a		7a	620	採鉱員, 採炭員
7a	7a		7a	621	石切出作業者
7a	7a		7a	622	その他の採掘作業者
6	6		6	623	陶磁器工, 絵付作業者
6	6		7a	624	石工
7a	7a		7a	625	ガラス・セメント製品製造作業者
6	6		7a	626	その他の窯業・土石製品製造作業者
7a	7a		7a	627	製鉄工, 製鋼工, 精錬工
6	6		6	628	鋳物工, 鍛造工, 金属材料製造作業者
6	7a	×	7a	629	化学製品製造作業者
6	7a	×	7a	630	金属工作機械工, めっき工, 金属加工 作業者
6	6		6	631	鉄工, 板金工
7a	7a		7a	632	金属溶接工
6or7a	6	△	6	633	一般機械器具組立工・修理工
6or7a	7a	△	7a	634	電気機械器具組立工・修理工
6or7a	6	△	6	635	自動車組立工・整備工
6or7a	6	△	6	636	鉄道車両組立工・修理工
6	6		6	637	船舶ぎ装工(他に分類されない)
6	6		6	638	航空機組立工・整備工
6	6		6	639	自転車組立工・修理工
6	6		6	640	その他の輸送機械組立・修理作業者
6	6		6	641	時計組立工・修理工
6	6		6	642	光学機械・精密機械器具組立工・修理工
6	6		7a	643	精穀工, 製粉工
6	6		6	644	パン・菓子・めん類・豆腐製造工
7a	7a		7a	645	味噌・醤油・缶詰食品・乳製品製造工, 飲食料品製造作業者
7a	7a		7a	646	たばこ製造工
6	6		6	647	酒類製造工
7a	7a		7a	648	製糸作業者
7a	7a		7a	649	織布工, 紡織作業者
7a	7a		7a	650	漂白工, 染色工
6	6		6	651	洋服・和服仕立職
7a	7a		7a	652	縫製工, 裁断工

ISCO	SSM	不一致	決定版	小分類	名 称
7a	7a		7a	653	製材工, 木工
6	6		6	654	指物職, 家具職, 建具職
6	6		6	655	船大工
6	6		6	656	おけ職, 木・竹・草・つる製品製造作業 者
7a	7a		7a	657	製紙工, 紙器製造工, パルプ・紙・紙製 品製造作業 者
7a	6	×	6	658	印刷・製本作業 者
7a	7a		7a	659	ゴム・プラスチック製品製造作業 者
6	6		6	660	くつ製造工・修理工, かわ・かわ製品製 造作業 者
6	6		6	661	塗装工, 画工, 看板工
6	6		6	662	漆塗師, まき絵師
6	6		6	663	表具師, 内張工
6	6		6	664	和がさ・ちょうちん・うちわ職 者
6	6		6	665	貴金属・宝石・甲・角等細工工
6	6		6	666	印判師
7a	7a		7a	667	洋傘組立工
6	6		6	668	かばん・袋物製造工
7a	7a		7a	669	がん具製造工
6	6		2	670	製図工, 現図工
2	6	×	6	671	映写技士
7a	7a		7a	672	その他の技能工, 生産工程作業 者
6	6		6	673	汽かん士, 汽かん火夫
6	6		6	674	起重機・建設機械運転作業 者
6	6		6	675	その他の定置機関運転作業 者
7a	7a		7a	676	発電員, 変電員
6	6		6	677	電気工事・電話工事作業 者
6	6		6	678	土木・建築請負師
6	6		6	679	大工, 左官, とび職
6	6		6	680	れんが積工, 配管工
6	6		6	681	畳職
7a	7a		7a	682	土工, 道路土工
7a	7a		7a	683	鉄道線路土工
5	5		5	684	現場監督, その他の建設作業 者
7a	7a		7a	685	倉庫夫, 仲仕
7a	7a		7a	686	運搬労務者
7a	7a		7a	687	清掃員
7a	7a		7a	688	その他の労務作業 者

SSM2005 データを EGP 分類に変換するための STATA シンタックス

* * 2005SSM EGP transformation program * *

```
generate rjc01=q02d
generate fjc01=q23_1d
generate fjc11=q23_2d
```

```
recode rjc01 fjc01 fjc11 / *
* / (501/504=10) (505/506=20) (507/510=10) (511/516=20) / *
* / (517/519=10) (520/523=20) (524=10) (525/535=10) / *
* / (536=10) (537/544=20) (545/553=10) (554/565=31) / *
* / (566/577=32) (578=71) (579=60) (580=71) (581=60) / *
* / (582/583=71) (584=32) (585=71) (586=31) (587=32) / *
* / (588=71) (589=32) (590=31) (591=32) (592=71) / *
* / (593/598=31) (599/605=72) (606=60) (607=71) (608/609=20) / *
* / (610=10) (611=31)(612/614=71) (615=20) (616/619=31) / *
* / (620/622=71) (623=60) (624/627=71) (628=60) (629/630=71) / *
* / (631=60) (632=71) (633=60) (634=71) (635/642=60) / *
* / (643=71) (644=60) (645/646=71) (647=60) (648/650=71) / *
* / (651=60) (652/653=71) (654/656=60) (657=71) (658=60) / *
* / (659=71) (660/666=60) (667=71) (668=60) (669=71) / *
* / (670/671=60) (672=71) (673/675=60) (676=71) (677/681=60) / *
* / (682/683=71) (684=50) (685/688=71) (689/691=99) / *
* / (701=32) (702=60) (703=20) (704=71) (705=99) (706=71) / *
* / (986/998=98) (999=99)
```

```
generate rjc02=rjc01
replace rjc02=10 if (q02a==1 | q02a==6) & q02c>=5 & q02c<=10
replace rjc02=41 if (q02a==1 | q02a==6) & q02c>=2 & q02c<=4 / *
* / & ((rjc02>=31 & rjc02<=71) | q02d==707)
replace rjc02=42 if (q02a==1 | q02a==6) & q02c==1 / *
* / & ((rjc02>=31 & rjc02<=71) | q02d==707)
replace rjc02=20 if q02d>=548 & q02d<=553 & q02a>=2 & q02a<=5 / *
* / & q02c>=2 & q02c<=4
replace rjc02=10 if rjc02>=31 & rjc02<=71 & q02e>=4 & q02e<=6 / *
* / & q02c>=5 & q02c<=10 & q02a>=2 & q02a<=5
replace rjc02=20 if rjc02>=31 & rjc02<=71 & q02e>=4 & q02e<=6 / *
* / & q02c>=2 & q02c<=4 & q02a>=2 & q02a<=5
replace rjc02=20 if rjc02>=31 & rjc02<=32 & q02e>=2 & q02e<=3
replace rjc02=50 if rjc02>=60 & rjc02<=71 & q02e>=2 & q02e<=3
replace rjc02=71 if q02d>=596 & q02d<=597 & q02c!=10
recode rjc02 (701/707=99), gen(rjc03)
recode rjc03 (98/99=.), gen(rjc04)
```

```

generate fjc02=fjc01
replace fjc02=10 if (q23_1a==1 | q23_1a==6) & q23_1c>=5 & q23_1c<=10
replace fjc02=41 if (q23_1a==1 | q23_1a==6) & q23_1c>=2 & q23_1c<=4 / *
* / & ((fjc02>=31 & fjc02<=71) | q23_1d==707)
replace fjc02=42 if (q23_1a==1 | q23_1a==6) & q23_1c==1 / *
* / & ((fjc02>=31 & fjc02<=71) | q23_1d==707)
replace fjc02=20 if q23_1d>=548 & q23_1d<=553 & q23_1a>=2 & q23_1a<=5 / *
* / & q23_1c>=2 & q23_1c<=4
replace fjc02=10 if fjc02>=31 & fjc02<=71 & q23_1e>=4 & q23_1e<=6 / *
* / & q23_1c>=5 & q23_1c<=10 & q23_1a>=2 & q23_1a<=5
replace fjc02=20 if fjc02>=31 & fjc02<=71 & q23_1e>=4 & q23_1e<=6 / *
* / & q23_1c>=2 & q23_1c<=4 & q23_1a>=2 & q23_1a<=5
replace fjc02=20 if fjc02>=31 & fjc02<=32 & q23_1e>=2 & q23_1e<=3
replace fjc02=50 if fjc02>=60 & fjc02<=71 & q23_1e>=2 & q23_1e<=3
replace fjc02=71 if q23_1d>=596 & q23_1d<=597 & q23_1c!=10
recode fjc02 (701/707=99), gen(fjc03)
recode fjc03 (98/99=.), gen (fjc04)

```

```

generate fjc12=fjc11
replace fjc12=10 if (q23_2a==1 | q23_2a==6) & q23_2c>=5 & q23_2c<=10
replace fjc12=41 if (q23_2a==1 | q23_2a==6) & q23_2c>=2 & q23_2c<=4 / *
* / & ((fjc12>=31 & fjc12<=71) | q23_2d==707)
replace fjc12=42 if (q23_2a==1 | q23_2a==6) & q23_2c==1 / *
* / & ((fjc12>=31 & fjc12<=71) | q23_2d==707)
replace fjc12=20 if q23_2d>=548 & q23_2d<=553 & q23_2a>=2 & q23_2a<=5 / *
* / & q23_2c>=2 & q23_2c<=4
replace fjc12=10 if fjc12>=31 & fjc12<=71 & q23_2e>=4 & q23_2e<=6 / *
* / & q23_2c>=5 & q23_2c<=10 & q23_1a>=2 & q23_1a<=5
replace fjc12=20 if fjc12>=31 & fjc12<=71 & q23_2e>=4 & q23_2e<=6 / *
* / & q23_2c>=2 & q23_2c<=4 & q23_1a>=2 & q23_1a<=5
replace fjc12=20 if fjc12>=31 & fjc12<=32 & q23_2e>=2 & q23_2e<=3
replace fjc12=50 if fjc12>=60 & fjc12<=71 & q23_2e>=2 & q23_2e<=3
replace fjc12=71 if q23_2d>=596 & q23_2d<=597 & q23_2c!=10
recode fjc12 (701/707=99), gen(fjc13)
recode fjc13 (98/99=.), gen (fjc14)

```

```

label define egp 10 "I" 20 "II" 31 "IIIa" 32 "IIIb" 41 "IVa" 42 "IVb" / *
* / 50 "V" 60 "VI" 71 "VIIa" 72 "IVc+VIIb"
label values rjc04 egp
label values fjc04 egp
label values fjc14 egp

```